

【実践2】 言語活動例を踏まえた「読むこと」の指導

「PISA調査」に対応した「読解力」を養成するための指導 - 情報の読み取りを中心に -

1 「PISA調査」で問われている「読解力」とは

OECDが2003年に行った第2回学習到達度調査（以下PISA調査）で、日本の「読解力」の得点については、OECD平均程度まで低下している状況にあるという結果が出た。これに対する各メディアの反応は厳しいものであったことは周知のとおりである。これに対して、我々国語科教員もその責任の一端を担っていることは言うまでもない。ここで問題になるのは、PISA調査で問われている「読解力」はどのようなものなのか、日本の国語教育で言われている「読解力」とどこが異なっているのか、という点である。

PISA調査で問われている「読解力」は、「リーディング・リテラシー（Reading Literacy）」の訳語であり、次のように定義されている。

読解力とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」である。

「自らの目標を達成し」「効果的に社会に参加する」といった表現をみるだけで、我々が普通に考える「読解力」とは異なるものであることが容易に分かるであろう。雑誌「日本語学」2005年6月号には、PISA調査結果に関する詳しい分析が示されている。それらから「読解力」について考えてみたい。

鈴木一史氏は、筑波大学の桑原教授の言葉を引き、PISA調査で問われている「読解力」とは「日本語の『読解』では、包み込めない問題が含まれている」とし、PISA調査は「読むことそのものを学ぶ」よりは「問題解決のために読む」ことに力点が置かれていることを指摘している。さらに、国語教育では旧態依然とした「書かれた文章を読み解く」ような「読解」が行われており、理解した内容や自分の考えを表現するまでは至っていないと問題点を指摘し、PISA調査により「読解力」が低下したからといって、今まで行われてきた段落読みや「精読」に走っても、「リーディング・リテラシー」の得点は上昇しない、と結論付けている。

では、どのようにすればよいのであろうか。そのためには、PISA調査の具体的な分析が必要となる。

2 「PISA調査」の「読解力」の問題とは

PISA調査の「読解力」の問題とは、どのようなものだったのだろうか。有元秀文氏は、PISA調査の問題が、通常日本で行われる国語のテストと異なる点について、次のような点を挙げている。（「日本語学」2005年6月号）

実際社会で直面する生きるために必要不可欠な実際的な課題が対象になる。

通常の文章は六割に過ぎず、実用的な図表・地図などが4割を占める。

従来の国語教育の枠を越えて理科や社会科に関連する幅広い話題が含まれている。

問題形式は、自由記述が四割で、自由記述問題の占める割合が通常日本で行われる国語のテストよりかなり高い。

読んだことについて、「書いてあることを根拠にして自分の意見を表現する」ことが求められる問題がある。つまり、「読解と表現が融合した」問題がある。

本文の内容について「批判する」ことが求められる。これも国語では殆ど行われない。

有元氏は「PISAの問題は国語のテストとかなり異なっている」ものだとし、この中で一番の違いは、上記にみられるように、「読解したことについて『表現』することを求められること」にあるとしている。また、記述式問題でも国語のテストでは「自分独自の意見を求められることは稀である」ため、に挙げたような「本文を批判させるような批判的な読み」に対して無答が多くなって、得点を引き下げた、と分析している。そして、「日本の高校生は慣れない課題でテストされたからできなかったのではないか」「読解力が低下したのではなく、もともと日本の高校生は、国際的な読解力は不得手だったのではないか」という仮説を立てている。では、実際にはどのような問題が出題され、どのような問題ができなかったのか。PISA調査の「読解力」の問題は、次の三つに分類されている。

- ・情報の取り出し：テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと。
- ・テキストの解釈：書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり推論したりすること。
- ・熟考と評価：テキストに書かれていることを生徒の知識や考え方や経験と結びつけること。

ここで、2003年の問題で無答率が高かった上位5つの問題を挙げてみる。

タイプ	テキストの形式	読解のプロセス	出題形式	日本		OECD		日本 - OECD	
				正答	無答	正答	無答	正答	無答
解説	連続	熟考・評価	自由記述	38.5	40.0	33.3	21.0	5.2	19.0
解説	連続	熟考・評価	自由記述	47.5	34.9	47.7	19.9	-0.2	15.1
記述	連続	熟考・評価	自由記述	55.8	32.0	53.8	23.1	2.1	8.9
解説	連続	解釈	自由記述	54.1	26.3	72.4	11.0	-18.4	15.2
地図	非連続	情報の取り出し	短答	53.8	24.9	42.8	26.4	11.0	-1.5

この表は、国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能2 OECD生徒の学習到達度調査(PISA) 2003年調査 結果報告書』所収の「表3.4.1」を基にして、数値はそのまま利用して作成したものである。これを見れば一目瞭然であるが、生徒自身の考え方を必要とする「熟考・評価」の問題、特に自由記述の形式で答える問題では、日本の高校生の無答率はOECD平均を大きく上回っている。つまり、テキストに書かれていることを正確に読み取った上で、自分の解釈、意見を自由記述で答える問題を日本の高校生は苦手としている、ということが分かる。

注目すべきは、「読解力」の低下がどの層に起こったのかという鈴木一史氏の指摘である。PISA調査の結果を見ると、標準偏差が前回86なのに対し、今回が106と広がっており、いわゆる「できる子」と「できない子」の差が広がっていることが明らかになった。さらに、上の表を見ると、無答率がOECD平均を大きく上回る問題でも、日本の正答率が逆に高くなっている。低位層の無答率を高位層の正答率がカバーしたことがここから明確に読み取れる。つまり、学力の二極分化が起こっており、「読解力」低下は低位層に特に表れている、と言える。

では、このような生徒をどのように指導すればよいのか。有元氏は、国際社会で論理的にコミュニケーションを行うためには、本文を正確に理解した上で書かれたことを根拠にして自分独自の解釈または意見を述べる力を身に付けさせる必要があると指摘している。これに対応した指導をどう具体化するかが次の課題となる。

3 実践単元の位置付け

ここまで述べてきたように、PISA調査で問われている「読解力」は、これまでのいわゆる国語教育とはかなり異なっている。しかし、決して触れてこなかった問題ではない。

学習指導要領「国語総合」の「2内容、C読むこと」の指導事項には、次のような記述がある。

エ 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること。

また、「現代文」の「4内容の取扱い」には、次のような記述がある。

(5) 教材は、近代以降の様々な種類の文章とする。その際、現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げるようにする。(後略)

学習指導要領解説によれば、「実用的な文章」とは「具体的な何かの目的やねらいを達するために作られた文章」であり、「案内文、紹介文、連絡文、広報文、手紙などの文章のほか、会議等の記録、報告文、解説文、説明書、企画書、法律の条文、キャッチフレーズ、宣伝の文章など」が例として挙げられている。つまり、学習指導要領のいう「様々な文章」とは、従来の国語教育で「読解」の対象となってきた文章ばかりでなく、PISA調査で取り上げられているような「実用的な文章」＝「実際社会で直面する生きるために必要不可欠な実際の課題」も含めて考えることができるであろう。

また、「国語総合」「3内容の取扱い(4)」には、「C読むこと」の言語活動例として、次のような例が取り上げられている。

(ウ) 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。

ここにも、PISA調査で強調されている「書いてあることを根拠にして自分の意見を表現する」活動が示されている。これらを踏まえ、「様々な文章」を教材にして「情報を読み取り」「自分の意見を表現する」活動を取り入れ、自由記述形式に対応した「読むこと」の指導を計画した。

4 実践単元における指導と評価の計画(3時間配当)

時間	学 習 内 容	具体的な評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類のテキストを用いた読み取り問題1～6に取り組む。 ・文章の書き手の意図を読み取るための方法を知る。 ・旅行広告A、Bのワークシートに取り組み、それぞれの広告にどのような問題点があるかを指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に積極的に取り組んでいる。 ・ワークシートに積極的に取り組んでいる。 ・それぞれの文章が、どのような狙いで書かれているかを読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動を観察する。 ・プリントの記述やワークシートを点検する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介文のワークシートに取り組む。 ・本の紹介文の効果的な表現について知る。 ・本の紹介文を創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに積極的に取り組んでいる。 ・学習した内容を踏まえ、紹介文の創作に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動を観察する。 ・ワークシートを点検する。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の書いた文章を互いに読み比べ、相互評価する。 ・自分の書いた文章を客観的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の文章を読み、公正な態度で評価している。 ・自分の書いた文章を客観的に読み直し、自己評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価票により、相互評価の状況を点検する。 ・プリントにより、自己評価の状況を点検する。
---	--	---	---

5 実践単元における指導と評価の実際

(1) 第1時

まず初めに、実生活に使われることの多い文章を用いた問題例として、外国人留学生を対象とした「日本留学試験」の問題を改変し、ふだん国語の授業では取り上げることのない文章を読む練習を行った。生徒は、日常触れることの少ないタイプの文章にとまどいながらも、真剣に取り組んだ。

問題例 1

(実際の問題はB 4判, 全部で6題)

このような文章では、単

Action 1 「日本留学試験」に挑戦

次の問題は、外国人留学生向けの「日本留学試験」の問題です。
あなたは、どれくらいできるでしょうか？

- [1] これは、水族館館内ツアーの案内のプリントです。
水族館ツアーについて正しいものはどれですか。

水族館 館内ツアー

当水族館には、600種類、75,000匹の魚たちを飼育しています。
ふだん見られない水族館の裏側をみてみませんか。水族館員が丁寧に、館内を案内します。イルカとの触れ合いもできますよ。

期間：4月9日(月)～4月11日(水)

集合：希望時間の開始10分前までに水族館入口ロビーへ
開始時間 11時, 13時, 14時, 15時, 16時

注意：所要時間は40分です。

予約は不要です。

入場券の半券が必要となります。

イルカとの触れ合いを希望する方は14時のツアーに参加してください。

- 1 14時のツアーに参加したら、ツアーは14時30分に終わります。
- 2 イルカとの触れ合いに参加したい人は13時50分までにロビーへ行きます。
- 3 ツアーに参加する人は整理券が必要です。
- 4 事前に予約をして、入場券の半券を持っていきます。

に文章の大意をつかむだけではなく、選択肢に示された情報を問題文の中に示された情報に一つ一つ対応させていかなければならない。これまで体験したことのない作業に、多くの生徒がとまどい、読み間違える生徒が続出した。生徒の感想にも「日本語のはずなのに、どこを見たらいいか分からなくて間違えてしまった」とか「外国の人でも解ける問題を間違えて恥ずかしい」といったものがみられ、改めて情報を正確に読み取ることの難しさを実感することができた。そこで、こういった文章を読み取るための方法を生徒から挙げさせたところ、「書かれたこ

とを一つ一つ確認しながら読む」「よく分からない時は、本文に戻って確認する」といった、当たり前ではあるが日ごろは怠りがちな点の指摘があった。

このような点を踏まえた上で、次に「旅行広告」を使った **問題例 2** に取り組ませた。これは、実際の海外旅行のパンフレットを参考にして教材化したものである。形式の異なる2種類の広告から必要な情報を読み取り、**ワークシート例 1** にまとめさせた。2種類の広告は、食事の回数など必要な情報の記載方法を変えてあるので、日ごろこのような広告に慣れていない生徒たちは予想以上に作業時間がかかった。

[A]

添乗員同行

食事18回付
朝7昼4夕7

カナダ アメリカ

まるごと三大絶景 9日間

ラスベガス・カナディアンロッキー・ナイアガラではゆとりの2連泊ずつ!!

ゆとりの28名様限定出発日

7月14日	289,800円
7月18・21日	299,800円
7月25・28日	299,800円
8月1日	319,800円
8月4日	339,800円
8月8日	369,800円
8月15日	299,800円
8月18・25日	289,800円
8月22日	289,800円
8月29日	279,800円
9月1・8・12日	279,800円
9月5・15日	269,800円
9月26・29日	269,800円

**大自然を満喫する
乗り物体験**

★グランドキャニオン
小型機で空から
遊覧飛行

☆ナイアガラの滝
大迫力の滝音に迫る
霧の乙女号乗車

★カナディアンロッキー
雪上車に乗車し、氷河
の上に降り立ちます。

■旅程

日	行程	朝	昼	夜
1	昼：中部国際空港より空路、成田・アメリカ国内乗り継ぎラスベガスへ。 午後：到着後、ホテルへ。ホテルでの夕食後、 ラスベガスナイトタイムショー へ。展望台からの夜景観賞や、ベラージオの噴水ショーにご案内します。 (ラスベガス泊)	—	—	ホテル
2	終日： 世界遺産グランドキャニオン国立公園 へ。空路、グランドキャニオンへ。 セスナ機での 空中飛行 （上空からの壮大な景観）と 地上観光 （ブライトエンジェルなどバスで巡ります）をお楽しみください。 (ラスベガス泊)	ホテル	レストラン	ホテル
3	昼：空路、アメリカ国内乗り継ぎカルガリーへ。夜：到着後 (カルガリー泊)	—	—	—
4	午前：カナディアンロッキーの大自然を堪能しながらバンフへ。 世界遺産カナディアンロッキー山脈公園 ヨーホー国立公園へ。神秘的な美しさの水河湖 エメラルドレイク やロッキーで最も美しいといわれる モレーンレイク 、カナダ最大の落差を誇るタカカワ滝、天然の橋 ナチュラルロックブリッジ など。 (カナディアンロッキー泊)	ホテル	レストラン	ホテル
5	終日： 世界遺産カナディアンロッキー山脈公園 ヨーホー国立公園へ。ロッキー山脈の宝石と称される レイクルイーズ などの水河湖をはじめ、キャッスルマウンテン、 ロビンピア大氷河 にて雪上車に乗車する 氷河列車 にご案内いたします。バンフ市内にてショッピングと夕食へご案内後、ホテルへ。 (カナディアンロッキー泊)	ホテル	レストラン	ホテル
6	早朝：カルガリーへ。空路、アメリカ国内乗り継ぎ バッファロー または トロント へ。 到着後、ナイアガラへ。ホテル到着後、 ライトアップされたナイアガラの滝 をお楽しみください。 (ナイアガラ泊)	—	—	ホテル
7	午前： 世界三大瀑布ナイアガラの滝 へ。大迫力！ 霧の乙女号 に乗車して滝壺附近まで迫ります。昼食後、19世紀の面影を残す街並み ナイアガラオンザレイク を観光します。その後、カナダ最大の都市 トロント へ。 トロント市内観光 （州議事堂、市庁舎、革製品ショッピングなど）。その後、ナイアガラへ。 (ナイアガラ泊)	ホテル	レストラン	ホテル
8	午後：バスにてトロントへ。空路、アメリカ国内乗り継ぎ帰国へ。 (機中泊)	—	—	機中
9	（日付変更線通過）夜：中部国際空港到着後、解散となります。	—	—	機中

◇ お申し込み・お問い合わせ・資料請求は

しあわせ旅行社

電話 052-****-****

ワークシート例 1

(実際は B 5 判横書き)

Action 2 旅行広告を読み解け

あなたは海外旅行に出掛けたことがありますか？
海外旅行の広告から必要な情報を読み取って、次の表を完成してください。
[条件] 8月10～15日に出発して、二人で旅をします。

		[A] しあわせ旅行社	[B] 海外トラベル
一人分の旅行費用			
訪問する場所		・ラスベガス ・グランドキャニオン ・ ・ ・	
食事	朝食	自己負担 0	自己負担
	昼食	自己負担	自己負担
	夕食	自己負担	自己負担
添乗員			
一番安い出発日 その値段			

このような問題をやった感想を書いてください。

その後、ワークシートの答え合わせを行った。生徒の感想には、訪問場所や食事の自己負担回数など、必要な情報を抜き出すことの難しさを理解したり、広告によっては本来必要な情報が（意図的に）分かりにくく書かれていることなどを実感したものなど、こちらが意図した以上の反応がみられた。最後にプリントを回収し、点検を行った。

評価は、プリントに自分なりに取り組めているものを B、空欄もなくしっかり書いているものを A、空欄も多く取り組みの悪いものを C とした。

(2) 第2時

最初に「本の紹介文」を用いた **ワークシート例2** に取り組ませた。その後、答え合わせをしながら、「本の紹介」に必要なポイントを生徒から指摘させた。その際、このような文章では必ず「どのような読者を想定しているか」を意識して書かれていることを特に強調した。

ワークシート例2

(実際はB4判)

Action 3 本の紹介文を読み解け

あなたは本の紹介文を読んでから本を読んだり買ったりしたことがありますか？
次の紹介文から必要な情報を読み取って、後の表を完成してください。

「落語」で青春って おかしいですか
ラクゴ・ボーイズ
越智 研也 著

平凡な毎日を送る高校生の「オレ」は、ひょんなことから文化祭で落語をやることに。初めはやる気なかった「オレ」だったが、落語オタクの「ウタマル」、近所に住む一人暮らしの老人「シショー」との出会いから、「オレ」の中の何かが変わっていった。

実話に基づくちょっとおかしな青春ストーリー。何となく毎日を過ごしている人に、ぜひ読んでもらいたい一冊です。

(以下略)

3つの本は、それぞれどんな人に推薦したらいいでしょうか。また、それはなぜでしょうか。紹介文を読んで、次の表を完成してください。

	どんな人によいか	推薦した理由
ラクゴ・ボーイズ 著者 []	1 平凡な毎日を過ごしている人 2	1 平凡に暮らしてきた高校生が主人公だから。 2
紙をめぐるお話 著者 []	1 リサイクルに関心がある人 2	1 2

(以下略)

ワークシート例3 生徒の作品例

Action 4 私の好きな本を紹介します
今まで学習したことを活かして、本の紹介文を書いてみましょう。

本(作品)の題名	パッパッ
著者(作者)名	あさのあつこ
本(作品)の紹介	…どんな人に推薦したらよいかを必ず書くこと

※工夫したところ

書けなかったところ

授業の後半では、**ワークシート例3** で本の紹介文を創作させた。その際、本の内容に触れること、「どんな人に推薦したらよいか」という点に留意することを指示した。過半数の生徒は前向きに取り組むことができたが、PISA調査の結果で指摘されていたとおり、自由記述問題に対して取組の悪い者もみられたので、助言を与えるなどした。完成した生徒についてはプリントを点検したが、時間内に完成することができなかった生徒については、次時までの課題とした。

評価は、本の内容が書けていて読者が設定できているものをB、読者を意識した書き方ができているものをA、とりあえず書けているものをCとした。

(3) 第3時

まず **ワークシート例4** 「相互評価票」を用いて相互評価させた。それを数回繰り返し、生徒の評価した「相互評価票」を文章を書いた生徒に返却した。それと併せて **ワークシート例5** 「自己評価票」を配付し、各自で自己評価をさせた。

ワークシート例4 (実際はB4判)

Action 5 「私の好きな本を紹介します」を読んでみよう
 みんなの書いた本の紹介文を、お互いに読み合おう。

No. 20

本(作品)の題名	私にできることは、なんだろう
著者(作者)名	日本国際博覧会協会
本(作品)の紹介	
この本は、世界の状況がすぐわかるようになっていて、今の日本はどれだけめがまれているのかわかります。私は、この本をぜひ日本中のの人に読んでもらいたいです。この本を読むことで、世界で今こうしている間にも何かが起こっているのかわかります。この本を1人でも多くの人に読んでもらい、世界のことを知ってもらいたいと思います。	

①

	5	4	3	2	1	
1 本の内容がよくわかるか。			○			3
2 本の基本的な情報が入っているか。			○			3
3 どのような人に読んでもらいたいのかわかるか。		○				4
4 紹介文に自分なりの工夫が見られるか。		○				4
	合 計					14

読んでひと言

何かが起こってるってすぐ気づいた。

ワークシート例5 (実際はB5判)

「私の好きな本を紹介します」自己評価票

1 作員の自己評価

	5	4	3	2	1	
1 本の内容がよくわかるか。			○			
2 本の基本的な情報が入っているか。			○			
3 どのような人に読んでもらいたいのかわかるか。		○				
4 紹介文に自分なりの工夫が見られるか。		○				
	合 計					13

2 他の方の評価をどう思いますか。
 他の方の評価は 自分に対して 甘い +2 +1 ○ -1 -2 辛い

3 この学習を通してどんなことを感じましたか。

自分が書いた文章をよんで、感想がいてくれるなんて、あまりないから、辛いけど、やりきったよかったです。読んでほしい。

____ 氏名 _____

6 実践の成果と課題

(1) 実践の成果

様々な種類のテキストに対しては、予想以上によい取組がみられた。ふだんあまり触れることのないテキストであればこそ、より慎重に情報を読み取るうとする姿勢につながったのであろう。

「本の紹介文」の創作では、効果的な表現を使おうという意図が多くの人にみることができた。これまで指導してきた場面でもみられたが、どのような相手に対して書くのかを明確化することで、より文章が書きやすくなるのであろう。これは今後も意識して指導していきたい。相互評価は互いに遠慮したせいか高評価が多かったが、自己評価では「自分はあまり深く考えずに書いたことを友達がほめてくれてとても満足した」という感想もあり、全体として教師側が予想した以上に意欲的な取組ができた。

(2) 実践の課題

PISA調査で明らかになったように、「自由論述形式」に対する抵抗感は根強いものがある。今回の実践でも、「どのような相手に推薦するのかを意識する」という意図は理解しながら、いざ表現するとなると手が動かない者が少なからずみられた。これには様々な要因が考えられるが、このような「自由論述形式」に取り組みさせる場面を数多く設定する必要を痛感した。

また、今回取り上げた様々な種類のテキストは、多くは外国人対象の「日本語教育」の教材を参考にしたものである。今回の実践に当たっても、準備に多くの時間と労力を要した。しかし、PISA調査結果を契機として提起された「読解力」の問題は、我々国語科教員としても取り組んでいかなければならない重要な問題である。従来の教材の枠にとらわれ

ず、様々な種類のテキストの開発が必要であろう。今回の実践もその一つになればと考えている。

[参考文献]

- ・国立教育政策研究所編 『生きるための知識と技能2 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2003年調査 結果報告書』(ぎょうせい)2004年
- ・日本国際教育協会編 『平成14年度日本留学試験(第1回)試験問題』(桐原書店)2002年
- ・伊藤博子他 『中級前半用日本語読解教材「読み」への挑戦』(くろしお出版)1992年